

国語科の学力向上に向けた取組

【三郷市教育委員会】

- 1 学校、学年、教科： 中学校・全学年・国語
- 2 ねらい：基礎基本の定着を図り、学力向上を図る。

3 取組内容（3年生）

（1）国語ルームの活用

前時の教科から国語の授業への切り替えをスムーズにするために「国語ルーム」を設置し、毎時間「国語ルーム」で授業を実施している。

「国語ルーム」には、国語の授業に関する約束事や既習の学習内容を掲示し、生徒が目で確認できるようにしている。約束事としては、「授業で大切にすること」5項目（自分の考えや感じていることに気づこう、自分の意見を持って言えるようにしよう、友だちの意見や考えから学ぼう、友だちと協力して学ぼう、教室は間違ふ場所だ 間違ふことで学んでいこう）と「聴き上手になる」ための3箇条などを示している。掲示物は、四字熟語やことわざなどの生徒が日常的に立ち止まることのない言葉を掲示するものと日頃の学習の成果物である優れたノートやワークシートを拡大したものなどを掲示し、学習意欲の喚起に努めている。



また、教室には、漢和辞典・古語辞典・漢字検定参考書・漢字検定問題集・国語に関する図書等を40冊ずつ常備し、必要があればいつでも手に取れるようにしている。国語辞典は、各机の中に入れており、授業の中で必要に応じて、意味調べ等を主体的に行う姿勢が身につけてきている。

（2）「読むこと」における学習交流の場を設定

「読むこと」の指導では、人によって読み取り方（印象に残ったこと、疑問に思ったこと、共感したこと、新しく発見したこと等）に相違点があることに気づかせるようにしている。

例えば、説明的文章の学習では、各自が要約をした後、意図的に3名～4名のグループを作り、互いのまとめを発表し合い、よくまとめられている生徒のノートを視写する。初めは、まとめることを苦手としていた生徒も、まねることからまとめ方を学び、要約する力がついてきている。

（3）様々な音読を実施

意図的に音読を行うようにしている。ペア読みや各連ごとのグループ分担読みなどを取り入れている。古典の学習の際には、生徒が原文を読み、教指が現代語訳を読むというように学習に効果的な音読を実施している。その結果、日常的に正しく発声し、リズムよく音読する態度が身につけてきている。

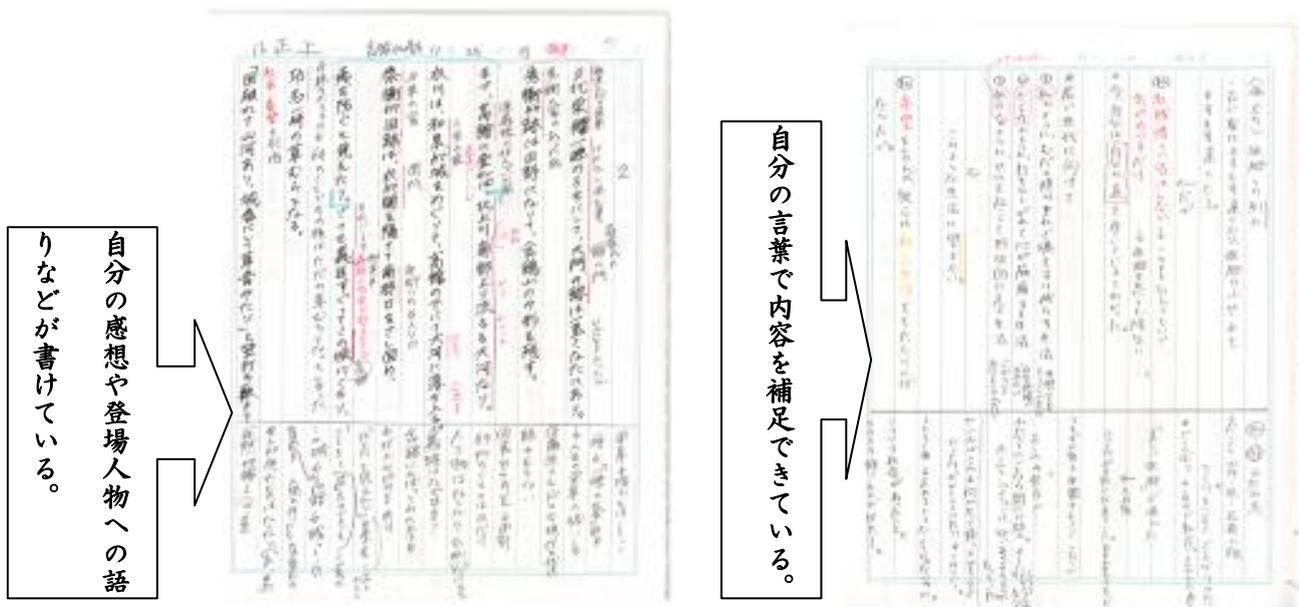
（4）良文の視写

定期的に三郷読書活動推進資料「言葉の力」やその他の良文の視写をする機会を設定している。時には、原稿用紙の形式に書かれている文章を与え、原稿用紙の正しい使い方を学ぶ場としている。

（5）ノート指導の充実

私達の言語生活の中では、耳で聞き取ったことを書き留めるという言語活動がしばしば求められる。そこで、授業中のノート指導を通して、必要な情報を取捨選択し、メモをとる力の育成を図っている。ノートは、板書欄とメモ欄に分けて使用するよう指示している。メモ欄には、語句の意味、教師の解説、友人の意見等を記録している。

このことによって、生徒一人ひとり独自のノートが誕生している。今後は、書き留めるだけでなく、思考を整理するノート指導を課題としていきたい。



(6) 選択する場面を設定

生徒の学習意欲を喚起するために、複数の学習材の中から選択させる場面を設定している。生徒は、選んだ作品に愛着と責任をもち、学習に取り組んでいる。

例えば、詩歌の学習では、生徒が興味を抱くことが期待される複数の作品を用意し、自分が気に入ったものを一つ選び、その理由を書いたり、鑑賞文を書いたりするようにしている。作文指導においても、テーマを複数設定し、自分がテーマを選んで書くようにしている。

(7) ワークシートの工夫

書くことへの苦手意識を減らすため、条件作文の書き方と練習を定期的に行い、個々への指導助言を行っている。また、作文を書く際には、プロットを書き込むワークシートを用意し、段落構成を工夫するよう指導している。

(8) 発問と答えの照合を徹底

定期テスト等の学力調査では、問いと正対しない解答が多く見られる。そこで、日々の授業の中で常に問いと答え方の指導を徹底している。

例えば、理由を聞かれている問いの場合は、「～から。」「～ため。」で答え、「～なことか。」と聞かれている問いの場合は、「～こと。」で答えるよう求めている。また、「書きなさい。」という問いと、「書き抜きなさい。」という問いを意図的に使い分け、どちらの問いに対しても正しく答えられるようにしている。

(9) その他

① 学習活動の交通整理

「授業規律の徹底」は、コミュニケーション能力の育成を目的とする国語科の授業では、特に重要であると考えている。返事や挙手、規律、語尾までしっかりと話すことは、日常的にこだわって指導している。

加えて、指導者側の心得として、学習活動の交通整理を意識している。授業の中では、二つ以上の作業を同時に行わずにすむよう、板書を写す時間、自分で考えをまとめる時間、メモをとる時間というように時間を区切っている。時間については、「30秒」「5分」と明確に示し、時間でしっかりと区切りを付けている。スピーチなどにおいては、時間内に話をまとめることが必要であり、日本人が比較的苦手とするところであるので、こだわって指導している。

② 授業外で書くこと

本校では、学校全体で体育祭・合唱祭などの行事ごとに感想を書くことを多く設定している。その際、全行書ききるように指導している。最初は、同じ内容をくり返し書いてしまう生徒や文字を大きく書いて行をうめようとする生徒もいたが、最近では、一行の字数が多くても全行書ききれるようになってきた。また、内容も充実したものになってきている。書いたものは教室の掲示ホルダーに入れ、よい感想については学級通信等でも紹介している。